

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 本城 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

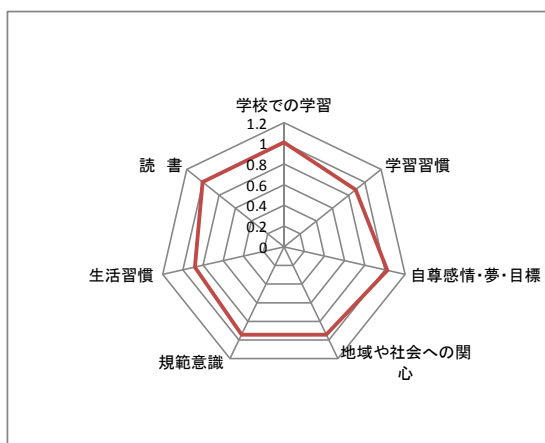
国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を下回っていたものの、昨年度より上昇傾向にある。 ・「読む能力」「話す・聞く能力」では、文章の構成について課題がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み取りの問題については正答率が高くよくできていた。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・7割の児童が手紙などの書き方や文章の構成を理解していない。 	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均を下回っていたものの、昨年度より上昇傾向にある。 ・文章の読解力と表現力に課題がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話す問題の正答率が高い。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・物語を読み取った後の考えをまとめる問題の無解答率が多かった。 ・目的や意図に応じて、必要な内容を整理して書いたり、話の意図を捉えたりする問題の正答率が低い。 	

算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を下回っていたものの、昨年度より上昇傾向にある。 ・図形領域の正答率は上がってきてはいるが、量と測定領域に課題がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形についての知識・理解の問題と図形についての技能は正答率が高い。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み取りの正答率が低かった。 	

算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を下回っていたものの、昨年度より上昇傾向にある。 ・割合の問題を苦手としている。また、自分の考えを表現する問題に無解答が多い。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・どの問題も選択式や短答式では、回答しようとする傾向が見られる。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・記述式の回答に対する苦手意識がある。 	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・学校での学習においては、めあてをもって学習に取り組んでいる。主体的に取り組もうとする意欲が伸びてきている。話し合い活動をより充実する取組が必要である。 ・宿題をきちんとする習慣が身に付いてきている。 ・毎日の読書タイムを実践することで、着実に読書の習慣が付いてきている。 ・自尊感情・夢・目標について、肯定的な回答が多くなった。 ・スマホや携帯電話、ゲームなどの使用時間が相変わらず多い。家庭での使い方についての取組が必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 何よりも子どもたちが授業が楽しい、おもしろいと感じる授業づくりをしていく。そのために、
 - ・学習規律のスタンダードをつくり、学校全体で徹底させていく。
 - ・掃除指導後、5分間の読書タイムを位置付け、落ち着いて5校時がスタートできるよう継続して実施する。
 - ・子どもたちが考えたい、調べたい、見つけたいといった追究意欲を高めるための導入の工夫を図る。
 - ・書く活動(自分の考えを書く・学習の振り返りを書く等)・話し合う活動(ペアで・グループで・全体で)を位置付けるようにし、言語活動の充実に努める。
 - ・1時間の学習の振り返りを毎時間行うようにし、自分や友達の学習の伸びを実感できるようにする。
 - ・主題研究(算数科)において、全員授業を行い、めあてのめたせ方と話し合い活動に重点をおいた授業研究を進めていく
- 学習内容の定着をはかるために、
 - ・朝自習の時間に「ひまわり」の音読と計算タイムを引き続き実施する。学校全体として取組内容についてシステム化していく。
 - ・水曜日の校時割を工夫し、6校時を全校一斉の学カタイムとして国語・算数の学習として位置付ける。その時間には、サポートシステムの基礎基本問題を徹底的に行う。
 - ・給食準備時間に「キラキラタイム」を設け、特別支援学級担任や7年生が各学級数名ずつを取り出し、算数科学力補充を継続して行う。
- 学力向上推進教員を活用し、学習の仕方の授業を行ったり、教材準備のノウハウを共有する研修を行う。また、若年教員を中心に授業参観やチームティーチングを行い、授業力向上のための指導助言を行う。
- 児童の読書量を増やすために、5校時前の5分間読書・昼休み読み聞かせ・図書室整備・昼休み図書室開館等本に触れる機会を多く設定する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習の定着のための学習方法の授業を、年度当初に学力向上推進教員が全クラスで行う。
- 家庭学習ハンドブックや生活習慣カードを活用し、各月重点的に「かんばり週間」を設ける。
- 各学年の宿題の内容・量をできるだけそろえる。
- 家庭学習チャレンジハンドブックの確認を毎週1回は行うようにする。
- 3年生から6年生までの児童にノートを配布し、各学級で自主学習の取組を推進する。
- 生活習慣の荒れにつながる事例には、家庭と密に連絡を取り保護者との共通理解を図る。
- 携帯やスマートフォン、ゲームについては、学校・学年通信、学級懇談会等で保護者に継続的に啓発していく。
- 本城小学校家庭学習の手引きを作成し、各家庭に配布して、家庭学習への喚起・定着を図るようにする。(学習時間・内容など)
- 本城小学校の生活のきまりを全家庭に配布し、全職員共通理解のもと指導を行っていく。